

意見募集(RFC)でいただいたご意見等に対する回答

参考資料4

※網かけ:ご意見を踏まえて入札募集要綱案の見直し等を行ったもの

No	対象箇所	キーワード	ご意見	当社回答
1	5章	入札価格	【算定項目の区分 可変費の燃料本体費】 バームオイル系は、常温で固形です。試算に当たり、固形で試算する理解でよろしいでしょうか。	ご検討いただいているバームオイル系燃料を利用した発電方式の詳細が分かりかねますが、例えば燃料を発電設備に投入するまでの過程で加温および保温が必要な場合等には、当該費用を含め、入札価格は、実際に発電あたり必要となる金額に基づき算定してください。
2	5章	二酸化炭素排出係数	【二酸化炭素排出係数の扱い】 バームオイル系は、バイオマス燃料の位置づけで排出係数0でCO2対応が必要との理解でよろしいでしょうか。	ご検討いただいているバームオイル系燃料が国への二酸化炭素排出係数報告対象とならない場合は、二酸化炭素排出係数は0として『(様式11の1)二酸化炭素排出係数算定書』を作成してください。
3	8章	燃料費調整	【エスカレーションと合成比率(?) 燃料本体費に適用する合成比率】 バームオイル系は、原油及び食用油市場に連動致します。要綱第8条(8)備考 ※19第3項に基づき事前協議とさせていただきますが宜しいでしょうか。	募集要綱『第8章(8)受給料金』にもとづき、実際の電力受給に際して、一般炭、原油および粗油、液化天然ガス、米国天然ガス以外の指標による燃料費調整を希望される場合は、ご希望により入札に先立ち事前協議をさせていただきます。 事前協議の結果、ご希望の指標に十分な実績/流動性がないなど、指標性を有していないと判断される場合には、ご希望の指標の採用はいたしかねます。なお、この場合は、募集要綱にもとづき一般炭、原油および粗油、液化天然ガス、米国天然ガスの指標を用いて、入札書類(様式9)合成比率の算定書』を作成してください。 なお、今回の募集においては、入札価格の算定にあたって、燃料本体費に適用するエスカレーション率を一律0%といたしますので、入札価格の算定にあたり合成比率を必要としないことから、募集要綱『第8章(8)受給料金』備考欄(*19)の3点目を以下のとおり修正いたします。 【修正前】 ・事業者が希望する場合、入札に先立ち上記の協議を行うことも可能といたします。なお、この場合も入札価格に適用する合成比率は、入札書類『(様式9)合成比率の算定書』といたします。 【修正後】 ・ <u>事業者が希望する場合、入札に先立ち上記の協議を行うことも可能といたします。</u>
4	—	—	現在、東京都が八丈町らと連携して、色々と計画して、取組んでいる『再生可能エネルギー(中小水力や地熱(バイナリーサイクル)等)による発電』の計画と、この入札との整合性・関連性、及び影響は、どのように考えているのか？ また、東京都等の自治体との連携とかは、ちゃんと取れているのか？	ご指摘の計画は東京都と八丈町にて八丈島の地熱発電の拡大を検討しているものです。今回の入札においては地熱拡大で見込まれる出力を考慮して発電機の更新計画を立て、必要な発電機新設を行うものであり整合を取っております。 また東京都の取り組みには弊社も参画しており連携を取りながら対応しております。
5	—	—	このまま、『コスト』中心に考え、『入札』や『自由化』を、変に過度に推進すると、化石燃料を使った『火力』や『内燃力』による発電だらけになるのではないのか？ (疑問3へ続く)	当社では再生可能エネルギーの拡大に関して、再エネ連系可能量の公表、様々な再エネ発電実証試験、地熱発電運営など実施しており、今後におきましても積極的に取り組んで参ります。 その上で、弊社としては島ごとの電力需要、地理的条件、コスト面等を勘案し、安定供給を遂行する上で最適な電源種別、容量を採用しております。またその新設、更新時には電源入札制度、発電機調達の競争入札等の徹底したコストダウンに取り組んでおります。今後におきましても、安定供給面、コスト面の両面から最適な電源計画の検討に取り組んで参ります。
6	—	—	【疑問2からの続き】 又、そこまでの状況には至らなくても、それらの方法による発電の系統全体に対する比率が、『設備容量』や『年間発電電力量』の観点から、異様に高くなりすぎてしまうのではないのか？ コレについて、どう考えているのか？ 【疑問4へ続く】	
7	—	—	【疑問3からの続き】 エネルギーのベストミックスの点や、地政学的な事を含む、その他諸々のリスクの上昇やコストの上昇につながるのではないのか？ そういった懸念について、どう考えているのか？ その他の発電手段の島ごとにあったものを今後、設けていくのか？	